地域デビュー指南術
～再び輝く団塊シニア～

シニアライフアドバイザー
松本すみ子　著

東京法令出版

7 自治体と大学の連携

シニア世代に関する内容で目立った活動といえば、立教大学が2003年から開講した「立教セカンドステージ大学」がある。一般の学部とは違い、シニア層に「学び直し」と「再チャレンジ」を目的とした学びの場を提供しようというもの。カリキュラムは、「エイジング社会の教養科目群」「コミュニティデザインとビジネス科目群」「セカンドステージ設計科目群」の3つがある。

「コミュニティデザインとビジネス科目群」では、ＮＰＯやＮＧＯ、ビジネス再チャレンジ、地域社会への参画などが学べる。また、「セカンドステージ設計科目群」では、老年学やセカンドステージでの健康や家族関係など、第二の人生での基本事項を学ぶ。

講師は、大学院21世紀社会デザイン研究科を主体とした教授陣で、評論家の立花隆氏も登場する。受講生は11あるゼミナールのどれかに属し、希望する研究テーマを設定し、担当の先生の指導を受けながら、研究成果をまとめ提出する。

出願資格は50歳以上。登録料は８万円、授業料は25万円。入学者の年齢は60～64歳が51％と過半数。男性は定年をきっかけに入学した団塊世代が多い。

団塊世代へのアプローチに悩む自治体は多いが、セカンドステージ大学のカリキュラム内容は団塊シニアのためのテーマばかり。であれば、団塊受講生と自治体が共同で同じテーマに取り組んでみることも、お互いの理解を深めるためには有意義である。受講生にとっても、実践的な研究テーマとなるだろう。そういう連携の提案を自治体から行ってもいいのではないだろうか。